

衰退産業における競争環境の推定:銭湯データを利用して

花田 真一*

1 要旨

本稿は、衰退市場における競争環境を、製品差別化の観点から、東京 23 区内の銭湯のデータを用いて分析したものである。

手法としては、閉鎖確率を被説明変数とした線形の推定を行い、品質をコントロールしたもとの同タイプ・異タイプの競争者の影響を推定している。

推定により、主に以下の結果が得られた。まず、同じタイプの競争者の存在によって、閉鎖確率が下がるという状況が観察された。この結果は、対象が衰退産業であり、残余需要を取り込むことに成功することで生存確率が高まる状況であることと併せて考えると、需要がある市場に産業の参加者が集中しているという現象を捉えていると考えられる。また、異なるタイプの競争者の存在が閉鎖確率に与える影響は、同じタイプの競争者から受ける影響よりも小さく、有意ではないという結果が得られた。この結果から、両タイプが同時に存在する均衡が達成される可能性が示唆された。

* 東京大学大学院経済学研究科 博士課程